
大湾区情報 No.2

Greater Bay Area Information 発行：2021年1月8日



「大湾区情報」では、今後、日系企業の皆様に有用と考えられる最新情報をいくつかピックアップしお届けしていきます。

【香港、「エアポートシティ」プロジェクトに400億香港ドルを投資】

香港政府の空港管理機関、香港機場管理局（The Airport Authority Hong Kong、以下「AAHK」）は12月3日、香港国際空港の各種プロジェクトの進捗状況を公表しました。それによると、香港及び各地域の経済発展を推進するために、空港の輸送能力および機能を高め、また空港を新たなランドマークとすることにより、2030年までの今後10年において、400億香港ドル以上を投資する見込みとなっています。

時を遡って2019年5月には、AAHKはすでに「エアポートシティ」のビジョン及び計画案を公開しています。「エアポートシティ」は、空港の独特な地理的位置を活用し、様々な新しいインフラによってもたらされるチャンスを利用して、空港のコア機能と関連産業をシームレスに統合することで、強力な相乗効果を生み出せるであろうと述べられています。

現段階においては、主に空港施設の整備向上プロジェクトに力を入れており、旅客ターミナルの搭乗ゲートの改良工事、第一旅客ターミナル(T1)とノースサテライトコンコースを結ぶ「スカイブリッジ」の建設、スマート空港施設の整備などが挙げられます。そのうち、「スマート空港施設」は、セルフセキュリティゲートやセルフボーディングゲート、モバイルアプリ「マイフライト」、旅客ターミナルを巡回するロボットの導入などがあります。その他、5G

インフラ設備 への投資及びデジタル駐機場管理システムの導入により、運営の効率化を図ります。

空港に隣接する港珠澳大橋（香港珠海マカオ大橋）香港側ゲートの人工島において、各空港サービスを重点的に向上させることも、「エアポートシティ」発展と関係しています。人工島に自動化された駐車場を整備し、トランジット客やインバウンド客向けに約 6,000 の駐車スペースを段階的に提供することを AAHK は計画しています。また、港珠澳大橋を経由して香港国際空港へ向かうトランジット客は、出入境審査を受ける必要なく、空港に通じる専用の橋を通じて搭乗ゲートに直接アクセスすることができるようになります。インバウンドのツーリストは無人の自動運転交通システムを利用して、SKYCITY（航天城）※や香港の他のエリアに向かうことができるようになります。

人工島建設のほか、香港国際空港の物流パークを広東省東莞市に設立することも計画の一つです。将来的には、中国大陸からの輸出貨物は東莞の物流園区で通関、セキュリティ検査、パレタイズ、貨物受け入れなどの作業を終えた後、香港国際空港のエアサイドカーゴターミナルに海上輸送され、世界各地へ直接発送することが可能となります。それに対し、中国大陸へ輸入された航空貨物は、香港空港に到着後、香港での通関手続きなしで、香港国際空港の制限区域から東莞物流園区に直接運送することができるようになります。海空複合輸送モードを試すためのパイロットスキームも 2021 年に開始されることが見込まれています。

また、港珠澳大橋の開通で香港国際空港と珠海空港との距離が縮まったことにより、AAHK は両空港の補完関係を促進するために珠海当局と協力し、珠海空港の長期発展戦略を策定していきます。香港と珠海の協力により国内マーケットとの結びつきがさらに強化され、珠海空港及び港珠澳大橋を経由して香港国際空港から世界各地へ飛ぶツーリストを呼び込むことができると期待されています。また、珠海との協力関係を強化することで、香港の航空貨物サービスが中国国内のより広いマーケットへ展開することができ、新たな旅客・貨物供給源となることで、中国国内の航空・物流産業の発展、促進が期待できます。

※SKYCITY（航天城）とは？

2022年から2025年にかけて段階的に完成予定の、800店以上のショップ、120の飲食店を擁する、香港最大のショッピング、ダイニング、エンターテインメントの総合施設。同時に、アジアワールドエキスポ（AsiaWorld-Expo）は、2万人収容の香港最大の屋内パフォーマンス会場となる「フェーズII」の建設に着手、フェーズIIの完成により、展覧施設の延床面積は10万平方メートルに拡大し、近隣のSKYCITY開発との相乗効果を生み出し、観光客や市民を引き付ける新たなランドマークとなる見込み。

【在香港・マカオ業者による広東省への高齢者介護サービスへの進出】

高齢者向けサービス業界では、介護スタッフや管理スタッフの需要に対する不足が根強く存在しています。広東省は昨年、「南粵家政」のプロジェクトを立ち上げ、高齢者介護サービスを4つの重点的研修プログラムのうちの1つとして掲げ、広東省各地ですでに述べ7万人に対して各種研修が行われています。

<広州市>

民政局が人材資源社会保障局と共同で「2019年－2021年“南粵家政”高齢者サービス研修プログラム」を策定し、年間5千人の高齢者サービス専門家を養成することを明確な目標とする。

<深圳市>

「深圳市“南粵家政”高齢者サービス研修事業の実施計画」が発表され、民政局高齢者サービス専門家チームの構築、研修方法の刷新、インセンティブ政策の策定、制度体系構築などを模索。

<中山市>

2020年4月より、民政局が高齢者サービス技能研修を展開、24の鎮、区において8期にわたって計164回の研修会の開催、延べ3,215人が研修に参加。

広東省では、2012年より、省内の高齢者サービスの高級管理職を対象とした香港での実地研修を年1回実施しており、2019年末までに、全8期のセッションが開催され、計357人が研修を受講しました。広東省において、現在、すでに香港とマカオのサービスプロバイダー7社が高齢者サービス施設を開設、運営しており、珠江デルタ地域9都市に香港、マカオの高齢者合計約400人を呼び込んでいます。

また、優秀な人材獲得、養成のために、各教育機関への高齢者サービスに関連する専門学科の設立支援、教育機関及び高齢者サービス機関との連携の促進、特定研修などを通じて専門学科で学ぶ学生の誘致、対象となる高齢者サービス機関による高齢者サービスのための専門学校の設立を支援しています。

次のステップとして、広東省民政庁は引き続き「南粵家政」プロジェクトを積極的に推進し、2022年までに、省内での目標「3年で12万人」を大きく超える高齢者介護及び管理スタッフへの研修を受けられるように努力していきます。

【参考資料】

・香港、「エアポートシティ」プロジェクトの開発に400億香港ドルを投資
http://www.cnbayarea.org.cn/news/focus/content/post_304359.html

・香港・マカオのサービスプロバイダーによる設立、運営の高齢者介護施設はすでに7社
http://www.cnbayarea.org.cn/news/focus/content/post_302797.html